6　爬虫類の地方名調査結果

(1) ヘビ類（有鱗目ヘビ亜目）（総称）

①　対象種

ヘビ類全体

②　生息情報

全集落

③　採録した呼び名

- 形　態　　クチナワ
- 一般的な和名　　ヘビ
- その他　　ドテウナギ

シマヘビ

④　生息及び呼び名の状況

近年では見かけることは少なくなったが，当時は郡内全集落に分布し，人家，田畑，藪，川等いたる所でよく見かけられ，あまり歓迎されない身近な生き物であった。

ヘビ類の総称としては「クチナワ」や「ドテウナギ」をはじめ計３種を採録した。

ヘビが細長い縄に口をつけたものに似ていることに由来し「クチナワ」と呼ばれ，かつては総称として一般的な呼び名であったとともに，アオダイショウ，マムシ等を除き「シマクチナワ（＝シマヘビ）」等，個々のヘビ名の語尾に「クチナワ」とつけて使われた。

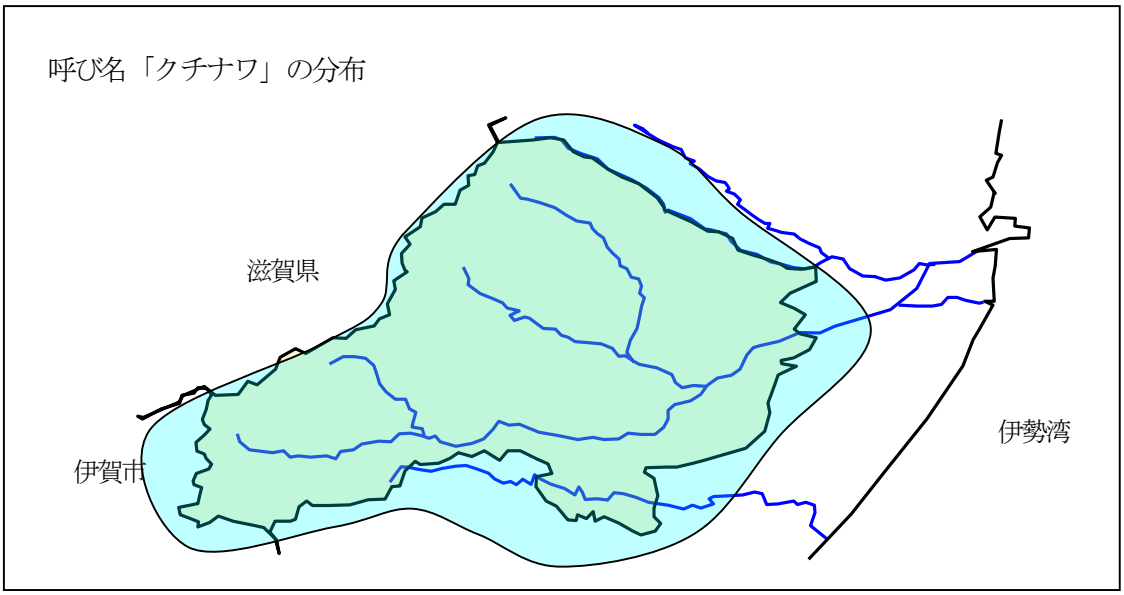
昔の高齢者は「クチナワ」をよく使用していたという話とともに，聴き取りで多くの高齢者から口をついてその言葉がみられたことから，「ヘビ」も昔から使われたものの学校教育等により一般化する以前は，「クチナワ」がより一般的に使われたものとみられる。

また，ほぼ全域で「ドテウナギ」とも呼ばれたが，ヘビ類を茶化して話す場合等限定的な使い方をされ，よく使われた呼び名ではなかったという。

なお，参考に聴き取りを行った甲賀市土山町山中では，昔から「ヘビ」と呼び，「クチナワ」とは呼ぶことはなかったという話があり，鈴鹿峠を挟み呼び名が異なった。

⑤　その他

聴き取りから，「火除けのために屋敷内にヘビを祭っている」という家がみられた。



⑵ アオダイショウ（有鱗目ナミヘビ科）

① 対象種

アオダイショウ

② 生息情報

全集落

③ 採録した呼び名

a） 通常型

・ 体　色　　アオクチナワ，アオヘビ
・ ネズミを捕食すること　　ネズミトリ
・ 天井を移動すること　　ケタマワリ
・ 人家の周辺で見かけられることや行動形態
　　カイドマワリ，サトマワリ，ジゲマワリ，ジマワリ，セコマワリ，ヤシキマワリ
・ その他　　アシナガ，ヤノサシ

b） 白化型　　シロクチナワ，シロヘビ

④ 生息及び呼び名の状況

郡内全集落に分布し，とりわけ人家の近くでよく見かけられた大型のヘビである。人家に入りネズミを捕食するとともに天井での移動音や落下音についての話も多くみられ，昔から人の生活との関わりが深く身近な生き物であった。

本種の呼び名としては，通常型個体については「サトマワリ」や「カイドマワリ」をはじめ 12 種，また全身が白色の白化型個体は「シロヘビ」等の 2 種，合せて計 14 種を採録した。

人家の周辺でよく見かけられることや行動形態に由来する呼び名が数多くみられ，東海道沿いの集落を中心に広い範囲で「サトマワリ」と呼ばれたほか，地域によって「カイドマワリ」，「ヤシキマワリ」等と呼ばれるとともに，ネズミを捕食することから「ネズミトリ」とも呼ばれた。

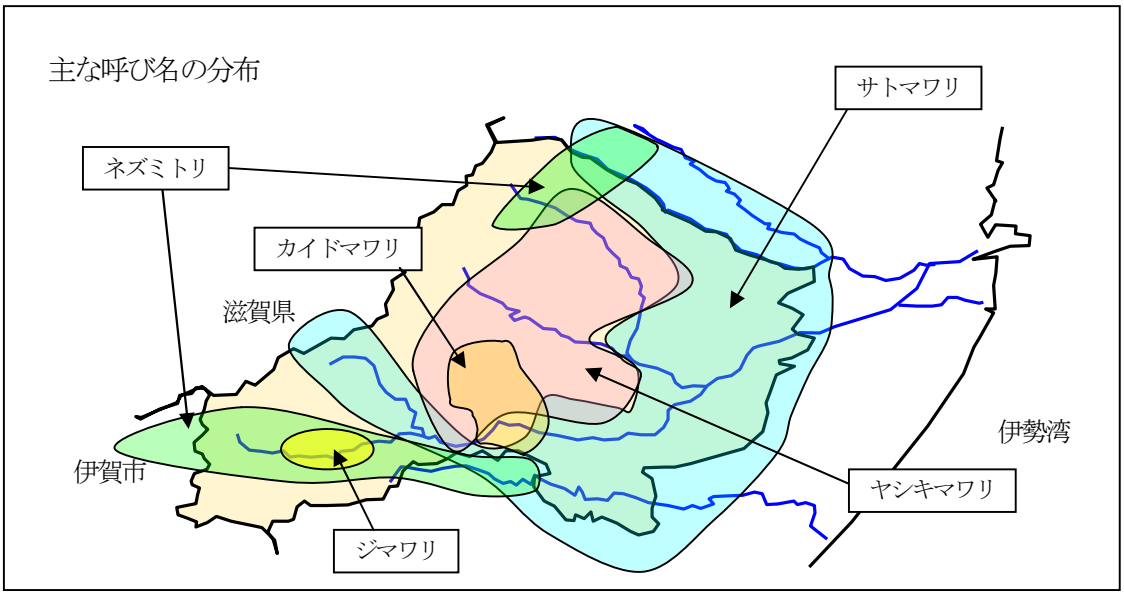
また，体色に由来する「アオヘビ」も広くみられたが，一部の集落を除きよく使われた呼び名ではなかったという。

なお，白化型個体は，聴き取り調査の対象としておらず，本種の聴き取りの中で話があれば採録し，「シロヘビ」等とよく呼ばれたものの，実際に目にすることは非常に稀であったという。

⑤ その他

聴き取りから，農家にとりやっかいものであったネズミを捕食する有益な生き物として身近に共存する関係にあり，次のような表現を採録した。

・「カイドマワリが家にいると家が栄える」，「サトマワリは家の守り神」
・「シロヘビは神様の使い」（白化型個体）



(3) シマヘビ（有鱗目ナミヘビ科）

① 対象種

シマヘビ

② 生息情報

全集落

③ 採録した呼び名

- 通常型　シマ，シマクチナワ，シマヘビ
- 黒化型　カラスクチナワ，カラスヘビ，クロクチナワ，クロヘビ

④ 生息及び呼び名の状況

郡内全集落に分布し，藪や畑等でよく見かけられた最も一般的なヘビであり，茶色い体に黒い筋が入った通常型個体のほか，全身が黒色の黒化型個体がある。少し気性が荒く，追いかけてくることがあるという。

本種の呼び名としては，通常型個体は「シマ」や「シマヘビ」をはじめ計３種，黒化型個体は「カラスヘビ」や「クロヘビ」をはじめ計４種，合せて計７種を採録した。

通常型個体は「シマヘビ」等標準和名又はそれに類する呼び名で呼ばれ，黒化型個体は「カラズヘビ」等一般的な俗称や「クロヘビ」等体色に由来する呼び名で呼ばれた。

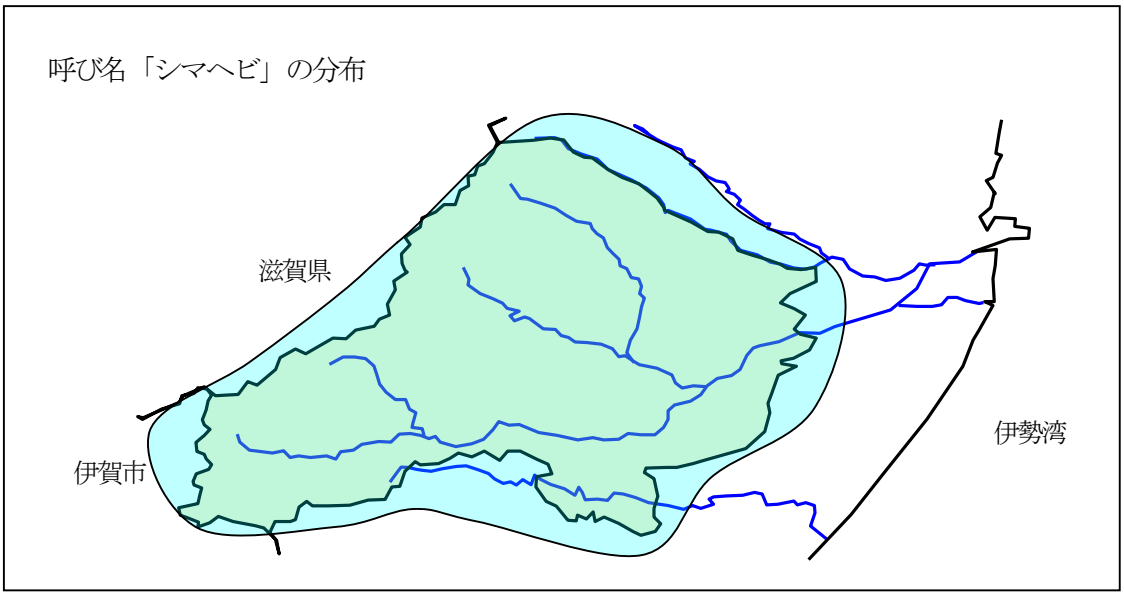
聴き取りでは，高齢となるほど「シマクチナワ」という呼び名が口をついてみられたことから，かつては「シマヘビ」より「シマクチナワ」とよく呼ばれたものと考えられる。

また，「カラスヘビ」，「クロヘビ」と呼ばれた黒化型個体は，生息個体数としては少なかったが，各集落で時折見かけられたという。なお，この中にはヤマカガシの黒化型も含まれるものとみられる。

⑤ その他

聴き取りから，とりわけ黒化型個体は「カラスヘビは追いかけてくる」という表現に代表されるように，気性の荒い怖いヘビというのが一般的な認識であったとともに，マムシと同様に薬用に利用できるとされ，次のような表現を採録した。

- 「カラスヘビに追いかけられたら川原を走り回れ。そうすれば腹が擦れて死んでしまう」
- 「カラスヘビは焼いて骨を食べると体に良い」
- 「カラスヘビは土瓶で蒸し焼きにして食べると結核の薬となる」



(4) ジムグリ（有鱗目ナミヘビ科）

① 対象種

ジムグリ

② 生息情報

広い山林がある集落

③ 採録した呼び名

・ 体　色　　アカクチナワ，アカコモン，アカヘビ

・ マムシとの混称　　アカマブシ，マブシ

④ 生息及び呼び名の状況

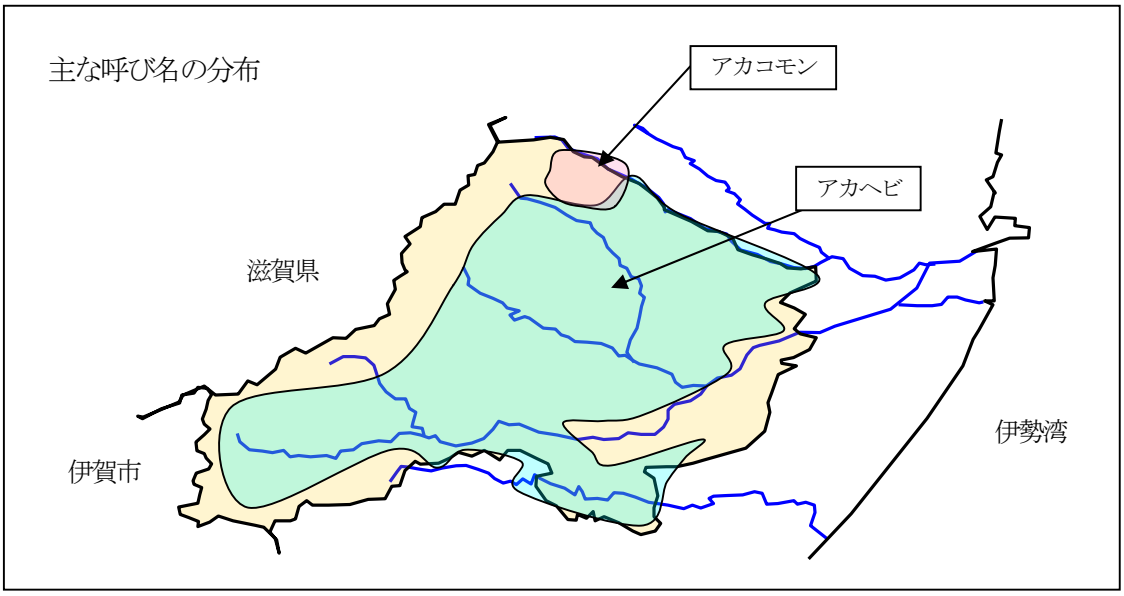
全身が茶色く又は赤く見え，主として山林内に生息するヘビである。

近年では地域での開発が進み，見かけることはほとんどないが，当時は郡内には山林が広がっていたことから山辺の地域だけでなく，広い範囲で分布していたことが伺われた。ただ，山林に生息するヘビであることに加え，平野部となるに従い生息個体数も少なくなるようで，昔から目にすることは少なく，稀に見かけられただけであったという。

本種の呼び名としては，「アカヘビ」や「アカコモン」をはじめ計５種を採録した。

赤みがかった体色に由来する呼び名がみられ，山辺の集落を中心として郡内の広い範囲で「アカヘビ」と呼ばれたほか，椿地区の一部では「アカコモン」と呼ばれた。

おとなしい無毒のヘビであるが，その目立つ色合いからマムシと混同され「マブシ」と呼ばれたり，また赤く見えることから「アカマブシ」等と呼んだ集落もみられた。



(5) ヒバカリ（有鱗目ナミヘビ科）

① 対象種

ヒバカリ

② 生息情報

全集落（はっきりとはしない）

③ 採録した呼び名

- 標準和名　　ヒバカリ
- その他　　アカコモンノコ，ヒバカリマブシ，ヒマカリ

④ 生息及び呼び名の状況

首の部分に白い襟のような斑があるのが特徴のヘビである。郡内全集落に分布していたものと考えられるが，小型であり目立たないことから認識されていない集落も多くみられた。

本種の呼び名としては，「ヒバカリ」や「ヒマカリ」をはじめ計４種を採録した。

かつては，「噛まれたらその日限りの命となる」という表現にみられるように毒蛇として考えられ，多くの集落で標準和名である「ヒバカリ」と呼ばれたほか，集落によっては「ヒマカリ」，また毒蛇であるマムシと結びつき「ヒバカリマブシ」と呼ぶ場合もみられた。

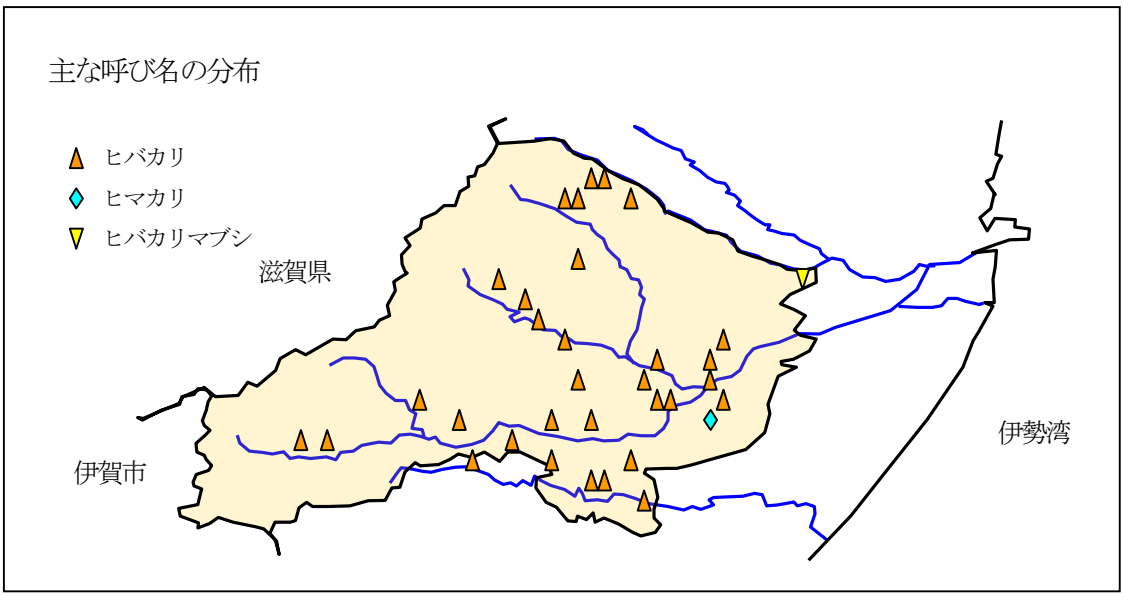
聴き取りでは，本種としての呼び名がみられなかった集落が半数以上あったことに加え，「ヒバカリ」という呼び名を採録した場合でもその半数近い集落で，「呼び名は昔から聞いたが，どういったヘビかはよくわからない」という話がみられた。

こうしたことから，毒蛇であり気をつけるべきヘビと当時考えられた一方，呼び名がある場合でも本種の識別や具体的な認識はあまりされていなかったのが実態であったと考えられる。

⑤ その他

聴き取りから，次の表現を採録した。

- 「マブシ（＝マムシ）が死んでから生まれ出てきたのがヒバカリ」



(6) ヤマカガシ（有鱗目ナミヘビ科）

① 対象種

ヤマカガシ

② 生息情報

ほとんどの集落

③ 採録した呼び名

- 小豆状の模様　　アズキ，アズキクチナワ，アズキセンベイ，アズキヘビ
- マムシとの混称　　マブシ
- ジムグリとの混称　　アカヘビ
- その他　　クソヘビ，ババヘビ

④ 生息及び呼び名の状況

ほぼ郡内全集落に分布し，藪等でよく見かけられた一般的なヘビであり，赤や黒の斑が目立つ体色をした個体のほか，全身が黒みがかった個体もみられる。おとなしいヘビとされるが口腔の奥に毒牙を持つ。

本種の呼び名としては，「アズキクチナワ」や「アズキヘビ」をはじめ計８種を採録した。

郡内の広い範囲で，首元から体にかけてみられる小豆（あずき）色をした模様に由来し「アズキクチナワ」又は「アズキヘビ」と呼ばれたほか，黒い色合いが少し強い個体については「ババヘビ」等と呼ぶ集落もみられた。

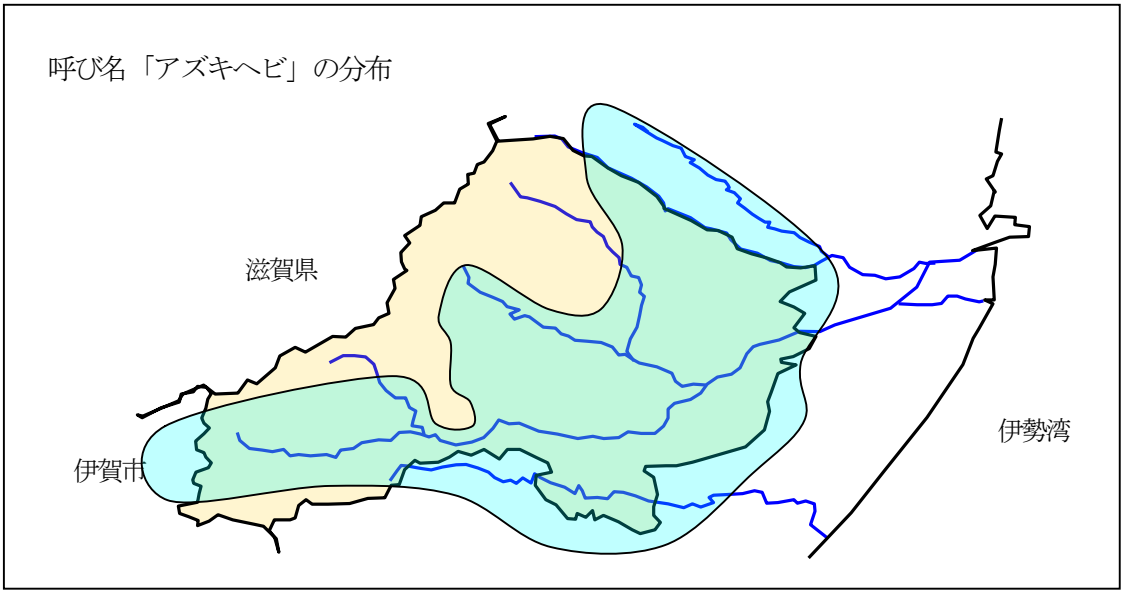
また，集落によっては赤い色や柄があることから，マムシと混同され「マブシ」等と呼ばれたり，ジムグリと混同され「アカヘビ」と呼ばれたりする場合がみられた。

広く認識されたヘビであったが，山辺の集落では生息個体数が少なくなるためか生息情報とともに呼び名もみられず，本種があまり認識されなくなる傾向にあった。

なお，周辺地域として聴き取りを行った四日市市山田町では「カエルサシ」を採録した。

⑤ その他

黒色がより強い個体は，シマヘビの黒化型と同様に，「カラスヘビ」や「クロヘビ」等と呼ばれたものとみられる。



(7) マムシ（有鱗目クサリヘビ科）

① 対象種

ニホンマムシ

② 生息情報

全集落

③ 採録した呼び名

・ 体　色　　アカマブシ，クロマブシ，ヒマブシ

・ 一般的な和名の訛　　マブシ

（※　一般的な和名　マムシ）

④ 生息及び呼び名の状況

郡内全集落に分布し，川の土手や水田畦等でよく見かけられ，毒蛇であることからとりわけ嫌われたヘビである。

本種の呼び名としては，「マブシ」や「アカマブシ」をはじめ計４種を採録した。

当初の聴き取りから，主な呼び名として「マブシ」と一般的な和名である「マムシ」とがみられたが，「マムシ」は当時から戦後にかけて学校教育等により一般化したものと考えられたことから，被聴き取り者からその祖父母等の世代が主に使用していた呼び名について改めて聴き取りを行った。

その結果，ほとんどの集落で「マブシ」と濁って呼ばれた。その他，集落によっては体色により「アカマブシ」，「クロマブシ」等といった呼び名がみられたが，当該集落においてそれらの生息の有無ははっきりとしない。

一般的な和名である「マムシ」については，一般化したのは戦後頃からという話があったことから採録せず，また呼び名の調査票への整理では，「アカマムシ」等体色を表わしマムシを呼ぶ場合は「アカマブシ」等，語尾を「マブシ」にまとめた。

なお，周辺地域として聴き取りを行った伊賀市柘植では「マモシ」を採録した。

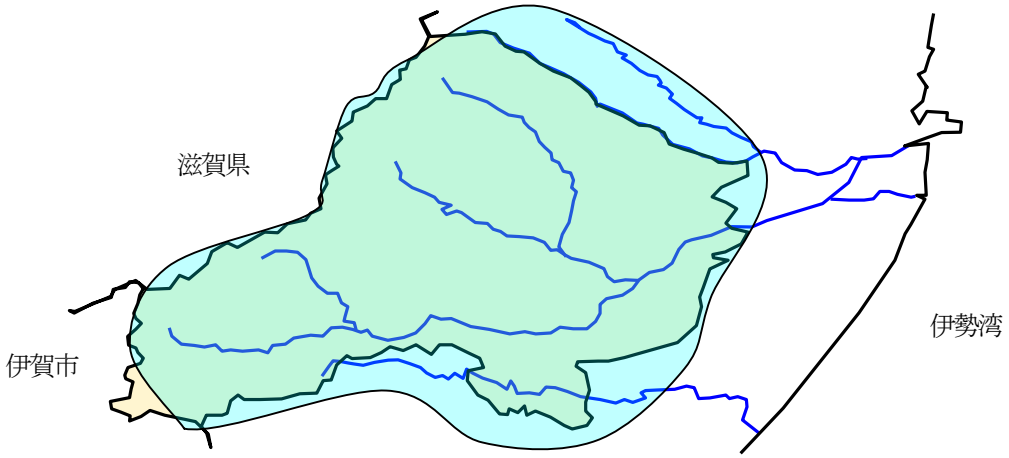
⑤ その他

聴き取りから，生きたまま焼酎漬けにした後に飲用したりするとともに，体の各部分が薬用として様々な用途に利用できるとして，次のような表現を採録した。

・「マムシはその目を飲むと目の薬，体は焼いて食べると精力剤，骨を干し砕いた後に，麦ご飯でこねて土踏まずに貼ると熱さましとなる」

・「マムシは皮は傷薬，肝は精力剤，目は目が良くなる薬，骨は乾かし砕いて飲むと熱さましとなり捨てる所がない。また雌の方がより薬になる」

呼び名「マブシ」の分布



(8) トカゲ類（有鱗目トカゲ亜目）（総称）

① 対象種

ニホントカゲ，ニホンカナヘビ

ニホントカゲ

② 生息情報

全集落

③ 採録した呼び名

- 一般的な和名　　トカゲ
- その他　　トカキ，トカケ

④ 生息及び呼び名の状況

郡内に生息するトカゲ類としては，ニホントカゲとニホンカナヘビの２種があり，近年でも庭先等でよく見かけることができる。

両種を合わせたトカゲ類の総称としては，一般的な和名である「トカゲ」のほか「トカキ」や「トカケ」の計３種を採録した。

当初の聴き取りから，当時には学校教育等により一般的な和名である「トカゲ」が一般化しつつあったと考えられたことから，被聴き取り者からその祖父母等の世代が主に使用していた呼び名について改めて聴き取りを行った。

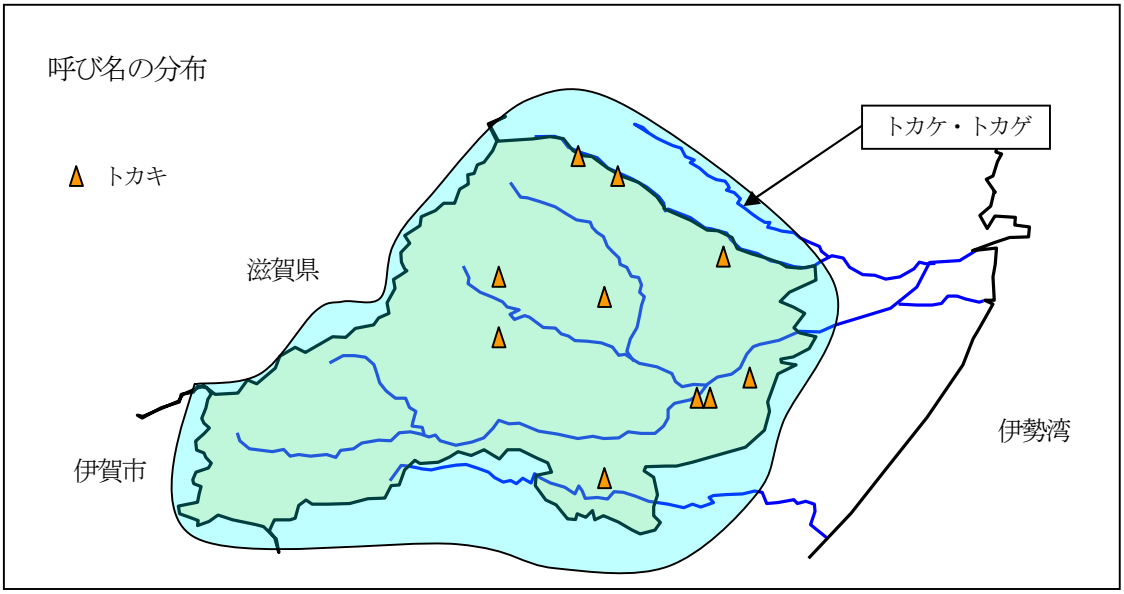
その結果，トカゲ類は一般的な和名である「トカゲ」と呼ばれたほか，郡内のほとんどの集落で濁らずに「トカケ」と呼ばれ，また一部の集落又は人によっては「トカキ」と呼ぶ場合がみられた。

当時，子ども達は高齢者が「トカケ」又は「トカキ」と呼ぶのを聞きつつ，学校では「トカゲ」を学び，それが一般化しつつあったとみられる。

⑤ その他

聴き取りから，次の表現を採録した。

・「トカゲの尾をちぎると良いことがある」



(9) トカゲ（有鱗目トカゲ科）

① 対象種

ニホントカゲ

② 生息情報

全集落

③ 採録した呼び名

- 体　色　　アオトカキ，アオトカケ，アオトカゲ，キントカゲ，ギントカゲ，ムラサキトカゲ
- 体の模様　　シマトカゲ
- その他　　オオトカゲ，ゼニトカゲ

④ 生息及び呼び名の状況

郡内全集落に分布し，近年でも庭先等でよく見かけることができるトカゲである。

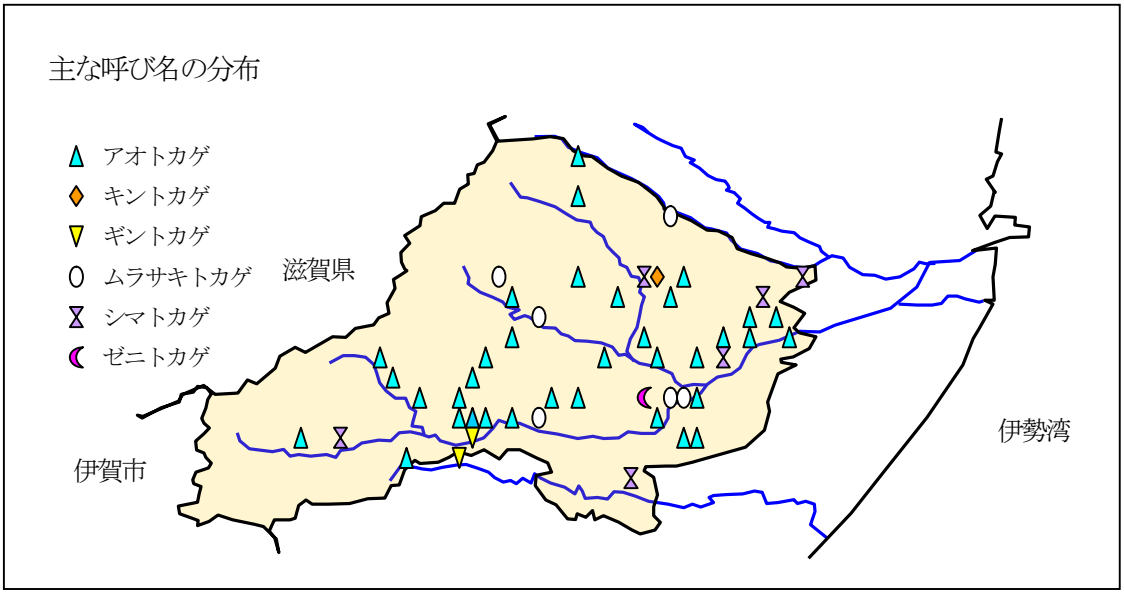
ニホンカナヘビに比べると，体型からやや大型に見える。体色としては，成体は黄色っぽく光沢があり，幼体は背が黒地に黄色い筋とともに尾が青いという特徴がある。

本種の呼び名としては，「アオトカゲ」や「シマトカゲ」をはじめ計9種を採録した。

ニホンカナヘビと区別し，背から尾にかけての体色や模様に由来する呼び名がみられ，とりわけ尾の色が青く見えることから多くの集落で「アオトカゲ」と呼ばれたほか，「ムラサキトカゲ」や「ギントカゲ」等と呼ばれたり，また体の模様から「シマトカゲ」と呼ぶ集落が散在してみられた。

このように先に色名等をつけて呼ぶ場合は，語尾は「トカゲ」と濁る傾向が強かったが，昔からの傾向なのか，一般的な和名である「トカゲ」という呼び方の影響なのかははっきりとしない。

なお，当時，ニホンカナヘビと区分けせず，ともに「トカキ」，「トカケ」又は一般的な和名である「トカゲ」と総称でよく呼ばれたが，ここでは記載を省略した。



(10) カナヘビ（有鱗目カナヘビ科）

① 対象種

ニホンカナヘビ

② 生息情報

全集落

③ 採録した呼び名

・ 体色　　アカトカゲ

④ 生息及び呼び名の状況

郡内全集落に分布し，近年でも庭先等でよく見かけることができるトカゲである。

ニホントカゲと比べると，やや小型で細長く見え，体色は全身が少し薄茶色をしている。

本種の呼び名としては，「アカトカゲ」の１種を採録した。

背から尾にかけて青みがかった色が目立つニホントカゲとの対比で，体色が赤いと認識されたようで「アカトカゲ」と呼ぶ集落がみられた。

なお，当時，ニホントカゲと区分けせず，ともに「トカキ」，「トカケ」又は一般的な和名である「トカゲ」と総称でよく呼ばれたが，ここでは記載を省略した。

⑤ その他

聴き取りから，ニホントカゲとの対比で本種について赤いトカゲというイメージを持つ高齢者が他の集落でも見られた。

(11) ヤモリ（有鱗目ヤモリ科）

① 対象種

ニホンヤモリ

② 生息情報

ほぼ全域の集落

③ 採録した呼び名

・ 一般的な和名　　ヤモリ

④ 生息及び呼び名の状況

郡内の広い範囲に分布していたようではあるが，生息情報が得られなかった集落もみられ，実際の生息状況は本聴き取り調査からははっきりとはしない。

聴き取りから，山林内や山積みされた瓦の下，池の近く，屋根裏等人目につきにくい湿気た所に生息していたことが伺われた。

本種の呼び名としては，「ヤモリ」の１種を採録した。

生息情報が得られた集落ではすべて「ヤモリ」と呼ばれ，他の呼び名はみられなかったことから，全域においても「ヤモリ」と呼ばれたとみられる。

なお，同じ集落でも被聴き取り者により生息状況の回答内容に違いがみられ，生息場所が人目に付きにくい場所であったり生息個体数が限られていたこと等により，昔からあまり目立たなかったものと考えられる。

⑤ その他

近年，生息個体数がより少なくなり，ほとんど目にすることはないようであるが，稀に見かけることがあるという。

※ 種別不明（ヘビ類）

トドヘビ（小社），ニシキヘビ（安知本・田茂）